

八月踊り歌集

大熊

五十路会

昭和五十八年八月

大熊踊りの太鼓の打ち方

おぼこり 3 3 3 3
 ••• ••• ••• •••

あらしやげ 4 3 4 3
 •••• ••• •••• •••

今の踊り 5 2 5 2
 ••••• •• ••••• ••

大熊と浦上 5 3 5 3
 ••••• ••• ••••• •••

でっしよ 1 1 2 1 1 1 2 3 2 3 1 1
 • • •• • • • •• •• ••• •• ••• • •

油だらだら 1 1 1 1 3 1 1 2 3 2 3 1 1
 • • • • ••• • • •• ••• •• ••• • •

喜界湾どまり 4 3 4 3 4
 •••• ••• •••• ••• ••••

ほうめらべ 1 1 1 3 4 3 1 1 1 3 4
 • • • •••• •••• •••• • • • ••••

赤木名観音堂 1 0 3 3 1 0
 •••••••••• ••• ••• ••••••••••

打ちばくらし 1 1 2 3 2 3 1 1 2 3 1 1
 • • •• ••• •• ••• • • •• ••• • •

西ぬ実久 点 打
 • • • • • • • • • • • • • • • •

浦富踊り 点 打
 • • • • • • • • • • • • • • • •

ドンドン節 3 3 3 3 3
 ••• ••• ••• ••• •••

奄美の民謡は私達の祖先の秀れた文化遺産であり、その文学的価値はかの万葉にも劣らないすばらしいものがあると言われております。

この奄美民謡は蛇皮線の伴奏で歌う所謂「島唄」と専ら鼓を打ちならしながら踊る八月踊りの二大系統に分けられますが慨して男女掛け合い唄う形式がとられており歌詞は特殊な歌を除いて八・八・八・六の上の句、十六・下の句、十四の琉歌系統のものは殆んど共通です。

八月踊りの場合、特に男女相聞的な傾向が強く他市町村においては、畦ならべや流れ歌などの歌詞が盛んに唄われているようですが、私達大熊では二・三の相聞・関連歌が唄われているに過ぎませんので、これからの大熊踊りの課題として畦ならべや相聞・関連歌などの歌詞を各踊りに取り入れて唄いついでいくよう努めていきたいものです。

各踊りに共通の歌詞の中から関連や、ならべ歌を若干まとめしてみました。

○ 今日ぬほごらしやや何時よりもまさり 何時もこの如にあらせたぼれ
ケブ イチ ゴト

○ 何時もこの如にあれば玉黄金 寄せていきる年ぬ若くなりゆり
イチ タマコガネ ヨ トシ

○ 寄せていきゆる年ぬ若くなるなれば 下り流る水ぬ上り流りゆり
クダ ハ ミジ ノボ ハ

○ 下り流る水ぬ上り流るなれば くだぬする石に花ぬ咲きり

ならべ

○ 汝きや初めやらぬ吾きや初めやらぬ けさぬ親ほじめ 躰初め
ナ ハシヨ ワ ハジ ウヤ セチケハジ

○ けさぬ親ほじめせちけたる島や な夜ぬ暮れぐれどしぬきそしら
シマ ヨ ク

あヨメの好女童ワラベや誰タが生ナさる子コがな 目眉メマ打ち揃ユウて生ソロれウマぎウマよウマらウマさ

目眉ヤウシ打ち揃ナて生フれて容姿ナが 汝ナきフや惚フらす目眉フ 無ネらぬネしのネき

きもしキやキげぬ加那カがみ口吸クうときキや 息キぬキ上キげ下キげぬキしキらキれキぐるキしキや

いぢチキやるチキ月チキがチキれチキやチキたチキだチキ一チキ月チキなりチキゆチキり あフわタれチキこフのタ月チキ二フヶタ月チキなりフゆタり

いぢミやるチキ月チキがチキれチキやチキたチキだチキ二ミヶチキ月チキなりミゆチキり あミわチキれミこミのチキ月チキやミ三ミヶチキ月チキなりミゆチキり

いぢユやるチキ月チキがチキれチキやチキたチキだチキ三ユヶチキ月チキなりユゆチキり あユわチキれユこユのチキ月チキやユ四ユヶチキ月チキなりユゆチキり

四スヶチキ月チキなるスがスれスやス袖スしスうスちス陰スし あカわケれカこカのカ月カやカ他カ人カにカ知カれカろ

他ヨ人ソぬメ目メぬメしメげメくメ口フぬフうフとフるフしフやフや 片カ親タにウやヤすヤまヤ知ヤらヤちヤたヤばヤれ

○ 鼓チヂミくわや打ウてば馬ウマぬ皮コど打ウつる ままクラしや子ウや打ウてばまナま名立タつり

○ 吾ワが打ウつる鼓チヂミ 一里イチリがれとよむ 一里イチリがら吾ワぬや聞キちど来キおる

○ 打ウてば打ウち飲ブしや夜鳴ユナリする鼓チヂミ 寄ユれば寄ユり飲ブしや加那カナがおそバ

○ おそユば寄ユてからや染スだしよりまサり 染スみ染スまねことナや汝身ナぬうクれ

○ 汝ナぬや例タトえれば水ミヅぬ中ナぬお月ジキ 及ウユばらぬ加那カナに手テさしなりゆめ

○ 夜明ヨけ白雲シロクモぬ行ユき別ワれ見ミりば 加那カナといハき別ワれあレが如ニ

○ 白雲シロクモやまサり風連カゼチれて行ユきゆり 吾ワぬや加那カナ連ツれて行ユかぬシのキ

○ いキ別ワれだもそかぬクちしヤやしが 加那カナよ死シに別ワれ涙ナどタらそ

関連

庭ぬ窪だまり雨降れば溜まる 降らじ溜りゆしや殿地そしら
トノチ 殿地あみしやれや果報な生れやしが カフマ 米倉や前なし床や腰あて
トノチ 殿地あみしやれがおもみしやることや コトシユ 今年世や二倉 タクラ 来年や三倉

関連

これ程ぬ踊り組み立ててからや ユ 夜ぬ明けて太陽ぬ上るまでも
キノ 明け暮れや知らじ踊りゆたる節や キユ 昨日や今日ち思ば昔どなりゆる

関連

行きよ玉黄金惜しタマコガネユで惜ユしまれめ ユ いもしもれそしらなから拝も
 行こ行こにしなければ後めささやしが 居ろ居ろにしなければ義理ぬ立たじ

関連

- 八月ぬ節や汝に吾にも照りゆり 豆殻マカラ打つ北風ニシに打たしあかそ
- 八月ぬ節や夜ひるに待つり 待ち受ユケたる節や今日やあらめ
- 八月やなりより振袖や無ネらじ ありしやれが御袖ドミンソカ借らしたぼれ

ドンドン節（道行き歌）

※ドンドン節は八月踊りの道行歌であり門入歌であり共通歌詞はいづれも唄える

(イ) ドンドン節ぬはやり赤木名から流行ナ ハキナ ハヤテ やがて徳之島大島ばやり ウシマ

(ロ) 有屋ウサキなんぢ白鷺ぬ居すりナ シルサギ 石鉄砲金鉄砲持ち来 ム コ 吾が射ちくれろ ワ ウ

(ハ) 松ぬ切口なんぢ朝寝する鳥やナ マチ キグチ 露におさわれて飛びやならぬ チユ

(ニ) 夏ぬなちかさや泉川ぬおそばやナ ナチ イズミゴ 冬ぬなちかさや加那がおそば

(ホ) おそば寄てからや染だしよりまさりナ 染み染まぬことや汝身ぬおくれ

(ハ) 汝ぬや例えれば水ぬ中ぬお月やナ 及ばらぬ加那に手さしなりゆめ

(ト) 男きよら花や七花に咲きゆりナ 女賤し花や一花咲きゆり イヤ チユ

(チ) 節と柴挿や七日ほざめりよりナ シチ シバサシ きもさげぬ加那やぬ隔ざめりゆり へ

鼓の打ち方

3
…

3
…

3
…

3
…

3
…

(リ) 八月ぬ節や汝ナに吾ワにも照テりゆりナ 豆マ殻カ打オつ北ニ風シに打ウたしあかそ

(ヌ) 八月やなりより振フリソ袖デや無ネらじナ あみされが御ド袖ミソ借カらしたぼれ

(ル) 八月ぬ節や夜ユひるに待ケつりナ 待ユち受ケけたる節ケや今日ケやあらめ

(ヲ) 八月ぬ節やよりもどりもどりナ よりにもどヤされて来ネ年ネぬこねだ

(ワ) 夜明 白雲ぬ行き別れ見ればナ 加那といき別れあれがごとに

(カ) 白雲やまさり風連れて行きゆりナ 吾ぬや加那連れて行かぬしのき

ドンドン節（門入り歌）

※門入り歌は八月踊り（家廻り踊り）門付けの時に唄う歌でその家の祈祷・祓の意味で最大の美辞賛嘆の歌詞を唄ってその家を寿ぎ・斉き・祓う

(イ) ○○衆シユウや吾ワきや島シマぬ大家タイカナ 吾ワきやが通カよて来クば呆クれてたぼれ

(ロ) 此コン殿地トノチうちや金カネ芳カバしややしナがナ 黄コガ金鍋ネナベちけてチヤラと焚ヤきゆる

(ハ) 此ニワン殿地ビルうちや庭ニワ広カさやしナがナ お庭ニワ片端カタバシに祝ユウておせろ

(ニ) 此ギン殿地ウうちにさみキそ木ウば植キえてナ さみナリそ木ユキぬ実マや雪グぬ真メ米

(ホ) 此サカン殿地キうちにバナウ榊サカ花キ植ウえてナ これナから先サや栄キ願メお

(ハ) 庭ニワは窪ケだまり雨タマ降タれば溜マるナ 降タらじ溜マりゆしや殿地ニワそしら

(ト) 殿地カあみフされや果マ報マな生メれやしトクがナ 米コシ倉メや前トクなし床コシや腰メあて

(チ) 殿地あみされがおもみしやる事やナ コトシユ タクラ ヤネ ミクラ
今年世や二倉 来年や三倉

(リ) 池浮けてきよらさ鴛鴦めどりナ イケウ ウンヌトリ
前立ててきよらさ殿地そしら

(ヌ) 今日ぬ佳かる日に蒔種ば下ろしナ ケブ ヨ ヒ マキダネ ウ ヤネ イネ アブシ
来年ぬ稲がなし畦まくら

(ル) 一升も要らぬ二升もいらぬナ チュワカシ イ タワカシ アワモリ シヤケ
泡盛ぬう酒三合たぼれ

(ク) 根張家庭に水車立ててナ ネバリヤンメー メジグルマタ マワ シチ ヨネ
うれ廻す節や今夜やあらめ

(辞去する時のあいさつ歌)

おぼこつたりようる果報さらどやよるナ おぼこらせの日や祝ておせろ

一般的共通歌詞

- (イ) 大熊高村や耳デクマテヌシヤされど聞ちやる まこと来ち見りば花ぬ都
- (ロ) 思たこと叶て願たこと叶て 加那が運フどちちやる身運ミフどちちやる
- (ハ) 天じとよまれぬ七ち星せ星 じぎにとよまれる殿地そしら
- (ニ) 老木生てあとや若人生て継ぎゆり 親祖あと継ぎゆし初ぬ思め子
オコギメ ワカギメ チ ウヤソ チ ハチ オ クワ
- (ホ) 踊らだヲな居れば村や山シマ ヤマなりゆり で吾きやほり立てて踊て響トヨも
- (ハ) 八月やなりより振袖や無ネらじ あみされが御袖借ドミノカらしたぼれ
- (ト) 八月ぬ節や汝ナに吾ワにも照りゆり 豆殻打マカラウつ北風ニシに打たしあかそ
- (チ) 八月ぬ節や夜ひるに待つり 待ち受ユけたる節や今日ケブやあらめ

(リ) 節シバサシと柴挿シバサシや七日ほざめりより きもさげぬ加那やぬほざめりより

(ヌ) 鼓チヂミくわや打てば馬ぬ皮コど打つる まましや子や打てばまま名立つり

(ル) わが打つる鼓チヂミイチリ一里がれとよむ 一里から吾ぬや聞キちど来おた

(レ) 打ウてば打ウち欲ブしやや夜鳴ユナりする鼓 寄ユれば寄ユり欲ブしやや加那がおそば

(リ) あの好女童ヨメワラベや誰か生ナしやる子コがな 目眉打メマユウち揃ソロて生ウれぎよらさ

(カ) 目眉打ナち揃フて生ナれてやうしが 汝ナきや惚フらす目眉無フらぬしのき

(イ) 今日ケぬほブこらしやや何時イチよりもまさり 何時もこのごとケにあらせたブばれ

※ 松マチや枝エダム待エダつり枝サカや栄サカえりゆり 松枝ゴトぬ如ゴトに栄サカえたゴトばれ

- (ク) 池ウ浮きてきよらさウンストリ鴛鴦めどり 前立ててぎよらさ殿地そしら
- (カ) 庭ぬ窪タマだまり雨降れば溜る 降らじ溜りゆしや殿地そしら
- (ハ) 殿地あみされや果報カフな生れやしマが 米倉や前メなし床トクや腰コシあて
- (マ) 殿地あみしやれがおもみしやることコトシユや 今年世タクラや二倉・来年や三倉ヤネ ミクラ
- (ヤ) 汝ナきや初めハジやらぬ吾ナきや初めやらぬ けさぬ親ほじぬせちけはぞめ
- (ラ) けさぬ親ほじぬせちけたる島や な夜ぬ暮れくれぐれどしのきそしら
- (リ) 十七・八頃や夜ぬ暮れど待つり 何時イチが夜ぬ暮れて吾自由なりゆめ
- (カ) 夏ぬなちかしやイヅミユや泉川ぬおそば 冬ぬなちかさや加那がおそば

赤木名観音堂（泊りマーラングワ）踊りの由来

この踊りの元の名は「殿のお蔵」といわれ大熊で歌われている「泊りマーラングワ」の歌詞が元歌のようです。

大熊は赤木名と共に島津藩の代官所が置かれた所で現在の保伊崎通りの山の手側に広大な砂糖蔵が立ち並び・各間切から集められた上納用砂糖が収納されていた。

お蔵序口の地名もこれに由来するものであり、従って「泊りマーラングワ」歌詞も自然発生的に生まれたものでしょう。

後に代官所が赤木名から伊津部に移ったあと十九年間観音堂だけ赤木名に残っていたので伊津部周辺の住民たちが「殿のお蔵」の踊りに託して、赤木名観音堂の歌詞を唄い観音堂の移転を促したという。

それ以後この踊りを赤木名観音堂と呼ぶようになったといわれます。

おぼこり (座り唄)

おぼこりは「有難とう」の意で感謝を表す言葉であります。

3
… 八月踊りの起原も実りの秋に五穀豊穰を神に感謝する祭事に始ると伝えられて

3
… おり、八月踊りの際「あらしやげ」に先立って唄はれる序曲であり儀礼歌であ

3
… ると同時に時には道行歌となり袂れの歌であり見送りの歌でもある。
ワカ

(イ) 根ネバリぬ庭ヤンメに水車ミヂグル立てて うれ廻シチす節ケや今日ブやあらめ

(ロ) 座モモすて唄オボしれば股トヨだるさやしが で吾オボきやほり立てて踊トヨて響トヨも

(ハ) 踊ヲらだシマな居シマれば村シマや山シマなりゆり で吾オボきやほり立てて踊トヨてとよも

(ニ) 八月ナぬ節ワや汝ナに吾ワにも照マりゆり 豆マ殻カラ打ニつ北ニ風シに打ニたしあかそ

ナラベル

ナラベル

(ル)

行き果てぬドンガ鳴り果てぬ鼓

揺ユりにムド戻されてヤネ来年ぬこねだ

(来年は新節にいわておせろ)
ヤネ ミセチ

(ヌ) (リ) (チ) (ト)

下り走る水ぬ上り走るなれば くだめする石に花ぬ咲きゆり

何時イチもこの如タマコガネにあれば玉黄金 寄て行きゆる年ぬ若くなりゆり

今日ケぬ祝ホこらしやや何時マサよりも勝り 何時もこの如マサにあらしたぼれ

(ハ) (ホ)

汝ナきや初ハジめやらぬ吾ウヤホジきや初ハジめやらぬ けさぬ親祖ぬせちけはぞめ
けさぬ親祖ぬせちけたるしまや な夜ぬ暮れぐれどしのきそしら

(7) 夜明^ユけ白雲^{シチクモ}ぬ行き^イ別れ見りば 加那といき別れあれが如^{ゴト}に
(7) 白雲^{カゼチ}やまさり風^イ連れて行き^イゆり 吾^チぬや加那^チ連れて行かぬしのき

(カ) 行きよ玉黄金^ユ惜^ユしで惜^ユしまれめ 行^イもしもれそしらなから^イ拝も
(ヨ) 行^イこ行^イこにしればあとむしやしやしが 居^ウろ居^ウろにしれば義理ぬ立たじ

(タ) おぼこりどやよるかほさらどやよる おぼこらせよりやきやしが戻^{ムド}そ
(レ) おぼこらし思^ユやいきやしやらむはかれ 夜^ユさり夜^ユながて踊^ユてたぼれ

(ツ) 思^ユたこと叶^ユて願^ユたこと叶^ユて 加那が運^ユどちちやる身^ユ運^ユどちちやる
白髮^{トコ}年寄^{トコ}りやハレ床^{トコ}にかざて ハレ我^{トコ}きやや下^{トコ}さがて 拜^{トコ}でおせろ

(ツ) 庭ぬ窪だまり雨降れば溜り 降らじ溜りゆしや殿地そしら

(ネ) 殿地あみされや果報な生れやしが 米倉や前メなし床コシや腰あて

(ナ) 殿地あみされがおもみしやる事や 今年世ユや二倉来年ヤネや三倉

(ラ) 夏ぬなちかさや泉川ぬおそば 冬ぬなちかさや加那がおそば

(ヌ) おそば寄てからや染だしよりまさり 染み染まぬことや汝身ぬおくれ

(ル) 汝ぬや例えれば水ぬ中ぬお月 及ばらぬ加那に手さしなりゆめ

(リ) これ程ぬ踊り組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ上るまでも

明け暮れや知らじ踊りゆたる節や 昨日や今日メち思メば昔メなちゆる

鼓の打ち方 ……⁴ ……³ ……⁴ ……³ (3 連打の時、右足を前に踏み出す)

あらしやげ

あらしやげは新しくうしやげる (押し上げる) の意で新しく節を迎えて神に
供物などを奉り式舞など盛んにして齋^(祝)うことを意味する。

(イ) ハレ今朝ぬホー親祖ぬしちきや 初めよんどハレ今朝ぬ親祖
ケサ ウヤホジ

(ハリヤオーセオセ) ハレ今朝ぬホー
ケサ

(ロ) 今朝ぬ親祖ぬしちけたる村やハレいや夜ぬ暮れぐれとしぬきそしらヨンノ
シマ ユク

ハレいや夜ぬくれぐれと (ハリヤオセオセ) いや夜のくれぐれと
ユ

(ハ) 大熊高村や耳されど聞ちやる まこと来ち見れば花ぬ都
デクマテロシマ ミミ キ ハナ ミヤコ

(ニ) 老木生て後や若木生て継ぎゆり 親祖後継ぎゆし初ぬ思め子
オコギメ アト チ ウヤソアトチ メ クワ

(ホ) 踊らだな居れば村や山なりゆり で吾きやほり立てて踊て響も
ヲ シマ トヨ

鼓の打ち方 4 3 4 3

- (ハ) 天じとよまれぬ七ち星 しぎにとよまれる殿地そしら
- (ト) 八月やなりより振袖や無らじ あみされが御袖借らしたぼれ
- (チ) 八月ぬ節や汝に吾にも照りゆり 豆殻打つ北風に打たしあかそ
- (リ) 吾が打ちゆる鼓一里がれ響も 一里から吾ぬや聞ちど来よる
- (ヌ) 打てば打ち欲しやや夜鳴りする鼓 寄れば寄り欲しやや加那がおそば
- (ル) あの好女童や誰が生さる子がな 目眉打ち揃て生れぎよらさ
- (ク) 目眉打ち揃て生れてやうしが 汝きや惚らす目眉無らぬしのき
- (カ) 唄変そ変そ節変そ変そ 唄ぬ変りばど節も変る

今イマの踊ヌりヲド

この踊りは歌詞の構成が他の歌と異なりおはら節・新相馬節などと同じく七・七・七・七・五調であり歌詞も純然たる本土風のもものが多く薩摩文化の流入を示す歌として注目される踊りであります。

ショーチヤイキヨラサー

(イ) 今の踊りは踊りがそろたソラ 踊り習わば今習へヤイキヨラサ

ヤイキヨラサノハリヤコリヤ ショーチヤイキヨラサー

(ロ) 長い刀は挿サしようがござるソラ 後下りの前あがりヤイキヨラサ

(ハ) 三度蒔サンデけマ 煙草種タバクダネおろせソラ おろし育ソダてて客えさちヤイキヨラサ

(ニ) はなそマクラく や枕マクラはいらぬソラ たがいちがいぬ腕枕ウデマクラヤイキヨラサ

鼓の打ち方

5 2 5 2
..... ..

鼓の打ち方

5 2 . . 5 2 . .

(ホ)

おりそ右太郎若松様よソラ

ミギタローワカマツサマ

枝も栄える葉も茂るヤイキヨラサ

(ハ)

鶏はおとたがまだ夜は夜中ソラ

トリ

心静かに寝ておざれヤイキヨラサ

ココロシズ

ネ

(ト)

今年初めて嫁取りしればソラ 茶おけくだめて楽しがるヤイキヨラサ

コトシハジ

ヨメト

(チ)

好いた好かぬは目もとでわかるソラ 好いた目もとは糸目もとヤイキヨラサ

ス ス

イソメ

(リ)

なんぼ惚れてもお庭のソテツソラ 垣の外から見たばかりヤイキヨラサ

2

(ヌ)

合わん手拭ば合わにすればソラ 夜ぬ夜鳴鳥なきあかそヤイキヨラサ

ユル ユガラシ

(ル)

船は出そ出そ夜明けに出そよソラ 泊入口瀬がござる ヤイキヨラサ

(ヲ)

沖の渡中にさよまつ立ててソラ 上り下りの船を待つヤイキヨラサ

(ワ)

沖に走る船だよ見て走らそソラ 屋久ぬ八重岳見て走すヤイキヨラサ

ハ

ヤヨダナミ

ハラ

デクマ
大熊と浦上

(イ) 大熊と浦上やヨイヨイしぎ(正義)杉 ぬ橋かけて うれがこげる時やうとるさんど

(ロ) 鼓チヂミくわや打てばヨイヨイ馬ぬ皮コど打ちゆる

まましクラや子や打てばままなたちゆり

(ハ) 吾が打ちゆる鼓ヨイヨイ 一里がれ響トヨも 一里から吾ぬや聞ちど来よる

(ニ) 打てば打ち欲ブしややヨイヨイ夜鳴りする鼓 寄れば寄り欲しやや加那がおそば

(ホ) 思てさえ居ヲりばヨイヨイ後先アトサキとなりゆる 節ムジグルマや水車めぐり合アゆり

(ハ) 年やとていきゆりヨイヨイ先や定まらじ 荒海に浮ちゆる船のごとに

(ト) 旅ハマヤドや浜宿りヨイヨイ草枕クサマクラココロ心 寝ても忘られぬ吾玉ワタマコガネ黄金

鼓の打ち方 5 3 5 3

鼓の打ち方 …… 5 …… 3 …… 5 …… 3

(チ) 倉ぬ雨アメすだりヨイヨイユメンドリ雀 さがて いやきやがユムブラソしらみハ這ゆり

(リ) 傍スバぬネセンキヤぬヨイヨイ ユムドワタ見れば 夏ぬフグトぬ草喰れドワタ

(ヌ) 磯ぬ割れくやヨイヨイ トギヤゴロぬ立つり

いやきやが肢マタばしやマラぬ立つり

(ル) 角チノマガ曲り牛ウシやヨイヨイ死シにば焼ヤし食カみゆり いやきやがざまヌヤクこれぬ何役たつり

(ワ) アドぶとぬヒぶとヨイヨイ眉トガはがぬヒはが 聞き咎トガめすしやうれがヒはが

(リ) 破れテルやうけばヨイヨイトリ鶏シぬ巢シむなりゆり

いやきやがヌヤクざまヌヤクこれぬ何役たつり

(カ) 朝マラぬわろがヨイヨイ腕ウデしぐりしれば 妻トシぬ朝じらぬユダリ吐ハきゆり

(ヨ) 汝ナきキモノやも肝直そヨイヨイ吾ワきキモノやも肝直そ 互タげキモノに肝直し踊キモノてとよも

(タ) あの好女童やヨイヨイ誰タダが生ナしやる子かやな 目眉うちそろウマて生れウマぎよらしや

(リ) 目眉打ソロち揃ウマてヨイヨイ生ウマれてやうしが 汝フきや惚フらす目眉無ネらぬウマのウマき

(リ) 今日ぬほこらしややヨイヨイ何時ウマよりも勝り 何時もこの如ウマにあらウマせたウマばウマれ

(ツ) 唄ウマ変ウマそ変ウマそヨイヨイ節ウマ変ウマそ変ウマそ 唄ウマぬウマ変ウマればウマど節ウマもウマ変ウマる

(ネ) おウマぼウマこウマらウマどウマやウマよウマるウマヨウマイウマヨウマイウマかウマほウマさウマらウマどウマやウマよウマる おウマぼウマこウマらウマせウマぬウマ目ウマやウマ祝ウマてウマおウマせウマろ

鼓の打ち方

1 1 2 1 1 1 2 3 2 3 1 1
• • •• • • • •• ••• ••• • • •

デツシヨウ

デツシヨウハジヨ

(イ) 手習初めたる誰がよ初めたる

タ

本土美男じよが初めたる

ヤマトキヨラオト

(ロ) 本土美男じよやきやさる日に生れて

ヤマトキヨラオト

ヒ マ

東ぬまぬ風に口ぬさらむ

クチ

カゼ

クチ

イジルナヌカジニクチヌサゲヨ

沙汰

油ダラダラ

(イ) 油ダラダラカジロウシユウ風浪主ハレ 馬マがれ持ムたすサて砂糖サタひきやしハレ

及ウユばらぬマゲシユ女メくわハレ ネンゴロしろちやソラ

(ロ) 上寺ウンテラやネツセンきやハレ 下寺サンテラや娘メラベんきやハレ

火ヒじり振フて見ミればハレ 目眉メマぬ冴ハえとんどやソラ

(ハ) 天棚アマダさがりぬ魚頭イユンカマチハレ 家ヤンこし下サがりぬトチブルくわハレ

出イジてもれ老人ウチユンキヤ達ハレ茶漬チャシユケニ煮しおせろ

(エ) 天棚アマダイユ魚サぬ下サがてハレ 猫マヤぬ目メぬだるさハレ

美妻キヨラトジば努メめてハレ 吾目メぬだるさや スリヤ

喜界湾どまり

(イ) ききやよわんどまりスダチ 育ぶしややしがハレ

ムジ 水こがれとりゆり山田 ヤマダ ヒラダ 平田ヤヨンノ

(ロ) ききやよわんどまりムジ 水こがれ取りゆりハレト

ウイシエ 潮こがれとりゆり山田 平田

(ハ) 庭ぬくぼ溜りゲダマ 雨降れば溜るハレ 降らじ溜りゆしや殿地そしら

(ニ) 殿地あみされや果報な生れやしがハレ

米倉や前メなし床コシや腰あて

(ホ) 殿地あみしやれがおもみしやることやハレ

コトシユ タクラ ヤネ ミクラ
今年世や二倉 来年や三倉

鼓の打ち方 4 3 4 3 4

鼓の打ち方

1 1 1 3 4 3 1 1 1 3 4
.....

嘉徳ホーメラベ

(イ) カドクホーメラベやことちけぬ煙草タバクよハレ

またもことちけぬもちれ煙草タバク

(ロ) 吾ワが持ムたす煙草タバクぬぬ不思議フシギあんがよ

親戚ウヤハロジよらて分ワけてみそれヤソヨ

(ニ) 睦ムチれ草とりやに睦ムチれるにすれば

縁エンぬねじさらめ睦れぐるしや

(ホ) 別れ草取りやに分かれるにすれば

縁ぬあてさらめ別れぐるしや

赤木名観音堂（泊マーラングワ）

(イ) 赤木名観音堂や伊津部かちなおろ

なおろく音なヨイサレ音ばかり

ハレヨイサヨイサヨイ

(ロ) 泊^{トマリ}マーラングワや浮^ウすてまり^フ振りゆり

しめてく^{センゴクカネチ}千石金積ましよマーラングワヨイサレ

ハレヨイサヨイサヨイ

西ぬ実久

(イ) 西ぬ実久なんてヨ本土船ぬ破れて
浦風れ風れよ黄金くくとめる

(ロ) 西ぬ中原主やヨ恥されて中原 うれが主たる後や佐和一主に取られて

(ハ) 佐和一主や本土松女くわや大島 黒潮へざめとて思ぬくくちさ

(ニ) 八月ぬ節やヨ汝に吾にも照りゆり 豆殻打つ北風に打たしくあかそ

(ホ) 八月ぬ節やヨ夜ひるに待つり 待ち受けたる節や今日やあらめ

鼓の打ち方 点 打

鼓の打ち方 1 1 2 3 2 3 1 1 2 3 1 1
• • • • • • • • • • • •

打ちばくらし

(イ) 鼓チヂミくわや打ウてば馬ウマぬ皮コど打ウつる まましや子や打ウてばまタまな立タつり

(ニ) 吾が打ウつる鼓 一里がれ響トヨむ 一里から吾ぬや聞キちど来キおる

(ホ) 打ウてば打ウち欲ホしや夜ユ鳴ナりしゆる鼓 寄ヨれば寄ヨり欲ホしや加カ那ナがおそソば

(ハ) おそソば寄ヨてからや染シだしシより勝カり 染シみ染シまぬことコとトや汝ニ身ミぬヌうウくれ

(ト) 汝ナや例タトえれば水ミぬ中ナぬお月ツキ 及ウばらぬ加カ那ナに手テさしシなりリゆめ

(チ) これ程チぬ踊ウり組クみ立タててからや 夜ヨぬ明アけて太陽タ陽ヨぬ上ウがるルまでも

(リ) 明アけ暮クれや知チらじ踊ウりゆユたるル節セや 昨キノ日ノや今キノ日ノち思シば昔メどドなりリゆる

浦富踊り

(1) 浦富踊りくわや いきやしがヤー踊りゆる

いきやしがや踊りゆる

ミギリハギサデ
右足先出て

ヒダリモモ
左腿たたし

六調

(今の踊りの歌詞はすべて六調の囃として唄はれます。 七・七・七・七・五調 || 十四—十二)

- (イ) 唄いします はばかりながら 唄の誤りごめんなされ
- (ロ) 踊り好きなら早よ出^ハて踊れ 踊りはぐれて踊られぬ
- (ハ) ここの屋敷は祝の屋敷 黄金花咲く金なる
- (ニ) 立てば芍薬^{シヤクヤク} 座れば牡丹^{ボタン}よ 歩む姿は百合の花
- (ホ) 島^{クダ}に下れば 足袋^{タビ}むち下れ 島^{アライシ}や荒石^{コイシ}小石原^{バラ}
- (ヘ) あの娘^コいくつか二十二か三か 何時^{イツ}も変らぬ十七・八
- (ト) 太鼓・唄しめて側から見れば 側ぬネセン^{デン}きや嫉妬^キ心
- (チ) 芸者 舞子^{コノ}や好^{コノ}でやしらんど 親^{ウラ}に売^{ウラ}れて芸者する

(リ) 思オモて通トわば千里も一里 会カわじもどればもと千里

(ヌ) 十七・八ごろ青葉の煙草 早く摘ツまなきや虫が付く

(ル) 踊りするなら三十まで踊れ 三十越コユれば子が踊る

(ヲ) 千両・万両の金にアなナ欲れぬ 私しや貴方アのナ氣に惚れる

(ワ) はなそくや枕マわいらぬど 互タいちがいの腕枕

(カ) 貴殿ア百ナまで私しや九十九まで 共に白髪アぬ生ナゆるまで

(コ) 船フぬ新造と女の好コいは 人ヒが見たがる乗ノりたがる

(ク) 沖ウに走る船フだよ見ミて走ハらそ 屋ヤ久ヨぬ八重岳ダ見テて走ハらす

(ケ) アンマ馬鹿バく番茶ハに欲ホれて 秋名アふなとに子コばくレて

(ツ) 踊れくよ早よ出て踊れ 踊り習わば今習え

(ツ) 沖の渡中にさよ松立てて 上り下りの船を待つ

おぼこり

一、おぼこれどやよろ かおさらどやよろ

おぼこらしよりや きやせがおせろ

二、みすて唄しればももだるさやしが

てわきやふりたてて 踊てとよも

三、送ろ玉黄金ゆしでゆしまれゆめ

いもせもれそしら 朝夕顔お

四、大和旅しれば月日ど読でまつり

ぐすが旅しれば ぬ読でまつり

ちぢんぬ打ち方（やや早く三回づつ打つ）

.....

あらさげ

一、今殿地庭や 庭広さやしが

お庭かたばしに 祝ておせろ

二、今殿地に 榊花植えて

これから先や 栄え願お

三、夜明白雲ぬ いき別れ見れば

加那と生き別れ あれが如に

四、池うきてきよらさおしの鳥めどり

前立てて清らさ しぎぬあぐくわ

ちぢんぬ打ち方（おそく やや早く）
